



地域交流
万博特集

2025年大阪・関西万博
チェコパビリオン
～人生のための才能と創造性～

スザンカ・ハニバロヴァー*

Czech Pavilion
Talent and Creativity for Life

Key Words : A Spiral, Societal Growth, Upward Movement



@Czech National Pavilion

チェコパビリオンは、螺旋（スパイラル）構造を中心にデザインされており、個人と社会の成長の旅を象徴しています。このダイナミックな上昇の動きは、発展と知識探求の姿勢を表現。身体を動かす体験と没入型のマルチメディア演出が心と体に刺激を与え、内なるエネルギーを呼び覚まします。



*名前/スザンカ・ハニバロヴァー 出身地/チェコ オストラヴァ 現在地/大阪府堺市 学歴/関西大学文学部、神戸大学大学院国際協力研究科 卒業 専門学/国際学、国際協力、国際関係、社会福祉 職業/外交、コメンテーター、司会者、通訳、ライター、教師 趣味/日本酒、美食、神社仏閣巡り、温泉、着物、人と人の繋がり
語学/チェコ語(母国語)・英語・日本語・ドイツ語・スペイン語・米山奨学生スピーチコンテスト 優秀賞・外国人留学生による日本語スピーチコンテスト 学長賞・女子留学生日本語弁論全国大会 関西1位 全国3位
*平成21年度今宮戎福娘 代表 現在も活動中～ *2018-2019 さくらインターナショナルプリンセス チェコ代表
*関西堺・チェコ国際交流協会 理事 *ヨガインストラクター *J.S.A.SAKE DIPLOMA international

日本に来てからもうまもなく20年。とにかく世界の様々な国を訪れるのが好きで、来日のきっかけも旅でした。日本の文化に憧れ、世界との架け橋になる夢を持ち、大学では国際学・国際関係を学ぶ。在学中にラジオ出演をきっかけにメディアに興味を持つようになり、卒業後大学で学んだ事を生かし、関西を中心にパーソナリティや司会など幅広く活躍。また、人との出会いやコミュニケーションが好きで、トライリンガルを生かしながら、国際会議のコメンテーターや国際交流事業のコーディネーター、司会・通訳なども務め、世界の人々を繋げる活動に励んでいます。2019年、在堺チェコ共和国名誉領事館を設立し、現在勤務しています。

Overview (概要)

チェコパビリオンのテーマ「人生のための才能と創造性」は、チェコを世界に影響を与える国として紹介するものです。パビリオンは、現代性と伝統が融合した建築であり、鉄骨を使わない木造建築として、持続可能なCLT（クロス・ラミネーテッド・ティンバー）パネルを採用。外観は、伝統的なボヘミアンガラスで美しく彩られています。

象徴的な螺旋形の導線に沿って進むと、来場者はアルフォンス・ミュシャの哲学にインスピレーションを受けたアート展示に出会います。館内では、ガラス彫刻やマルチメディアアートが展示され、チェコならではの独創的な芸術世界を体感できます。

屋上からは、素晴らしいウォーターフロントの景色が望め、ビジネスプレゼンテーションや交流の場として「CTP ラウンジ」*も設けられています。また、講堂では、200人以上のチェコのアーティストやパフォーマーが出演し、その才能と創造性を大阪の地で披露しています。

*CTP 社がスポンサーになり提供するビジネスラウンジ

Background (背景)

2022年12月、チェコ国際博覧会総代表事務局は、20余年ぶりに、2025年大阪・関西万博におけるチ

ェコパビリオンの設計に関する公開・匿名の建築コンペを実施しました。世界中から38チームが応募し、2023年3月、国際的に著名な建築家エヴァ・イジチュナー（Eva Jiřičná）氏を審査委員長とする専門審査員団によって、アプロポス・アーキテクト（Apropos Architects）の提案「ガラスの螺旋」が最優秀案に選ばれました。

この建物は、近代的な木製パネル構造に、何世紀にもわたってチェコで受け継がれてきた芸術的なガラスを組み合わせた、伝統と革新が融合したデザインです。

今回の万博は、チェコが独立国家として6回目の世界博覧会参加となります。2022年9月には、外務省による選考を経て、オンジェイ・ソシュカ（Ondřej Soška）氏が総代表に就任。「輝くいのちのための才能と創造性（Talent and Creativity for Life）」というテーマのもと、パビリオンの計画が進められてきました。

2024年4月には、大末建設株式会社との間で正式な建設契約が締結されました。パビリオンは円柱形のらせん構造を特徴とし、ボヘミアンガラスやチェコから輸入された木材を用いて、チェコの職人と日本の作業員、そして両国の技術者の協力により建設されました。開会式前に無事完成を迎えました。



@Czech National Pavilion

大阪・関西万博において、チェコパビリオンは、来場者がすでに親しんでいるガラス工芸やクラシック音楽に加え、革新的な技術やナノテクノロジー、有望なスタートアップ企業、そして各地から集まった才能ある人物たちを紹介する場となります。

パビリオンは、2025年4月から10月にかけて大阪湾の人工島・夢洲で開催される万博の中で、チェコ共和国の魅力を象徴する空間です。館内には、常設展示のほか、多目的ホール、ビジネス会議施設、レストラン、そして屋上のCTP ラウンジが設けられています。また、屋外には海を望みながらくつろげるスペースも整備されています。

Visitors' Journey (ビジタージャーニー)

「物事は、可能である限り起こり続ける」——

この思想を体現するかのように、チェコパビリオンのらせん回廊では、現代チェコのアーティストによるマルチメディア展示が繰り広げられています。参加アーティストは、画家のヤクブ・マトゥシュカ（別名 Masker）、彫刻家のロニー・プレスル、そしてクリエイティブ集団 Lunchmeat Studio。それぞれが、螺旋構造の空間に呼応した表現を展開し、ヒューマニズムの思想と未来へのメッセージを、音と映像を通じて来場者に届けます。

この展示の出発点となったのは、アール・ヌーヴォーを代表する芸術家アルフォンス・ムハ（ミュシャ、

1860-1939）の思想です。彼は作品に超越的な意味を込め、今なお象徴的な存在として芸術界に息づいています。晩年に構想した未完の三部作《三つの時代》では、「愛」「理性」「英知」という三つの価値を通じて、人間性への深い理解とヒューマニズムを描こうとしました。

展示の中核を担うのは、Masker による絵画とドローイングです。テーマは「人間の探求心」。その物語はらせん状に展開し、日常の出来事や感覚から、普遍的・歴史的な問いへとつながっていきます。観る者は作品に共鳴しながら、自らを見つめ直し、自己理解を深めていく体験を得られるでしょう。

この旅をさらに豊かに彩るのが、ロニー・プレスルによるガラス彫刻です。パビリオンの前に立つクリスタルの樹木は、自己と自然とのつながりを静かに示唆します。作品の壮大な存在感は、「ヴィトルム・ヴィヴム」と呼ばれる世界でも類を見ないガラス鑄造技術によって生み出されています。この技術は、ほぼあらゆる形状の制作を可能にし、広がる枝や輝くバラは、美しさと儂さの両面を映し出し、痛みの中に宿る永遠の価値を表現しています。

展示全体をつなぐのは、Lunchmeat Studio による没入型インスタレーション『ラストコール』。視覚と聴覚に訴えかけるこの作品は、デジタルメッセージを通して現代社会の課題を鋭く浮き彫りにします。人間の存在の儂さを認識し、そこから行動への意識



@Czech National Pavilion



©Czech National Pavilion

が芽生えるよう促す構成となっています。

ボヘミアン・グラス—伝統と革新の交差点

チェコパビリオンのらせん回廊は、アート空間であると同時に、チェコのガラス工芸の進化を紹介するバーチャルギャラリーでもあります。通路に沿って、現代チェコを代表するガラス作品が展示されており、クラフトの歴史と最先端技術が交錯する場となっています。

なかでも注目すべきは、世界的なガラスメーカー Lasvit による《ハーバリウム》。自然が見せる一瞬の美しさをガラスに封じ込め、まるで時間が止まったかのような幻想的な空間を創出しています。

回廊の頂上には、チェコを代表するガラス作家レネー・ロウビーチェックによる彫刻が設置されています。1970年の大阪万博にも出展されたこの作品は、時を超えて再び大阪の地に戻り、歴史と未来をつなぐ象徴として、今なお輝きを放っています。

Czech National Restaurant (チェコレストラン)

チェコパビリオン1階のレストランでは、伝統と革新が融合した多彩なメニューを取り揃え、来場者に新しい食の体験を提供しています。

メニューには、ハーブとキノコのクリーミーなスープ「クライダ」や、チェコ伝統のオープンサンド「フレビーチュキ」、野菜や鴨のローストを詰めたふわふわの蒸しパン「クネドリキー」、燻製肉と赤キ



Na zdraví!! (乾杯)

ャベツを包んだじゃがいものダンプリングなど、郷土色豊かな料理が並びます。

また、アジア風にアレンジしたパオパンにポークや鴨を挟んだ一品や、発酵パンズにバニラカスタードを添えたデザート「ドゥカトヴェ・ブフチチュキ」、バニラアイスを添えた蜂蜜ケーキ「メドヴニーク」など、甘味も充実。伝統とモダンの両面から、チェコの食文化を味わえます。

レストランは、イートインとテイクアウトの両方に対応。料理の仕込みは会場外で行い、仕上げを館内で行うことで、多くの来場者にもスムーズに提供できる体制を整えています。

ドリンクには、世界的に有名なチェコビール「ピルスナー・ウルケル」をご用意。本場チェコで研修を受けた日本人バーテンダーが、「フラディンカ」や「ムリーコ」など、チェコ独自の注ぎ方で一杯ずつ丁寧に提供します。

さらに、400年以上の歴史を誇る蒸留酒ブランド「ルドルフ・イエリーネク」からは、プラム、アプリコット、チェリーなどの芳醇なフルーツブランデーがラインアップ。モラヴィア地方の名門ワイナリー「THAYA」からは、国際的な賞を多数受賞した銘柄を厳選し、チェコの高品質ワインもお楽しみいただけます。



@Czech National Pavilion

食器にもチェコのこだわりが息づいています。青い花模様が美しい磁器「ベルナドッテ」シリーズや、洗練された白の「ELLA」シリーズ（いずれもチェコ最大の磁器メーカー「Thun 1794」製）を使用。さらに、老舗ガラス工房「Květná 1794」の手吹きクリスタルグラスが食卓を彩り、食の時間をより特別なものに演出します。

レストランの運営は、チェコ料理人協会に所属する若手からベテランまで幅広い世代のシェフたちによって支えられています。特に注目すべきは、1970年の大阪万博・チェコスロバキア館で活躍したシェフたちのレシピや技術が、現代の料理人に引き継がれている点です。伝統の技を継承しながら、現代的なアレンジを加えた料理が、特別イベントなどで提供されることもあります。

チェコパビリオンのレストランは、世界最大のチェコ料理レストランを目指しており、1日最大で2,000食の食事と5,000杯のビールを提供できる体制を整えています。この大規模な運営能力により、万博を訪れる多くの来場者に、チェコの豊かな食文化とおもてなしを存分に体験していただけます。

DAISUE HALL (オーディトリウム)

2025年の大阪・関西万博において、チェコはその

豊かな文化の広がりや深み、そして多様性を余すところなく紹介しています。パビリオンでは、会期中の26週間にわたり、200人以上のアーティストが出演。音楽、演劇、マルチメディアアートなど、ジャンルを超えた30以上のプロジェクトが展開されています。クラシック音楽から現代的なパフォーマンス、子ども向けプログラムまで、多彩な内容が用意されており、日本および世界中からの来場者に、チェコ芸術の魅力を新たな形で体感してもらうことを目指しています。

こうした文化プログラムは、チェコの国民的アイデンティティを体現するものであると同時に、国際的な対話の場としても重要な役割を果たしています。特に日本とは、視覚芸術、音楽、演劇といった分野で長年にわたる交流の歴史があり、それが多くの企画の基盤となっています。たとえば、プルゼニのアルファ劇場と東京の人形劇団ブークによる合同公演や、歌手バーラ・ズメコヴァと日本の音楽ユニット「満月ミカ」によるコラボレーションなど、両国のアーティストによる共同プロジェクトも予定されており、国境を越えた芸術の融合が注目されています。

これらの公演やイベントの多くは、チェコパビリオン内の多目的ホール「DAISUEホール」で開催されます。このホールは、優れた音響設備、柔軟な空間設計、快適な座席配置にこだわって設計されており、訪れる方々に上質な文化体験を提供します。魅



@Czech National Pavilion

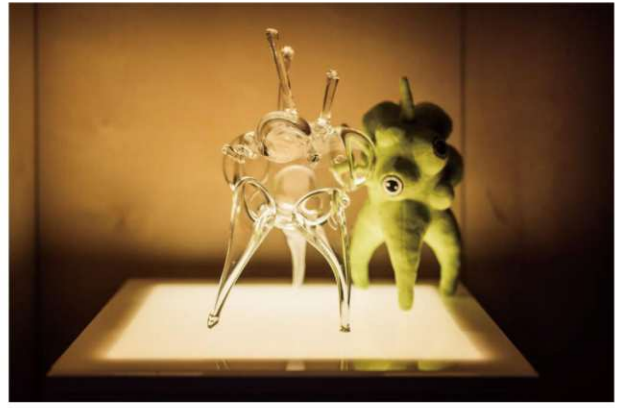
力的なロケーションと洗練されたインテリアが調和したこの会場は、チェコ文化を心ゆくまで楽しめる特別な空間です。

音楽プログラムには、チェコ音楽界を代表する名門団体や著名アーティストが多数参加します。ピルゼン・フィルハーモニー管弦楽団、チェコ放送室内楽団、ブルノ国立劇場といったクラシックの重鎮に加え、現代チェコを象徴する先鋭的なアーティストも登場。バーラ・ズメコヴァと音楽ユニット「満月ミカ」による対話的パフォーマンス、クラシックとエレクトロニクスを融合させたオルガン奏者 Katta Vox、音と映像を融合したオーディオビジュアル集団 Lunchmeat、シンガーソングライター兼マルチ奏者のアンナ・ヴァヴェルコヴァ、現代舞踊の代表格 42+People、舞台美術とサウンドデザインを組み合わせた Vektroskop など、多彩なジャンルが一堂に会します

また、家族や子ども向けのプログラムも充実。チェコ伝統の人形劇や子ども向け音楽公演のほか、週末にはユネスコ無形文化遺産に登録された人形劇フェスティバルも開催予定です。さらに、チェコと日本の子どもたちによる合同演劇作品も企画されており、あらゆる世代が楽しめる内容となっています。

Mascot René (レネ)

日本の公式マスコット「ミャクミャク」とも仲良しのレネは、チェコと日本の協力関係を表しており、このマスコットは、1970年に同じく大阪で開催された万博 (EXPO'70) のチェコスロバキア・パビ



@Czech National Pavilion

リオンが大成功を収めたことへのオマージュでもあります。

レネは、2つの姿でチェコを代表します。1つは、1970年の大阪万博でチェコスロバキア館に展示された名作『生命の源泉と雲』を制作した著名なチェコのガラス彫刻家、レネー・ロウビーチェクによるオリジナルのガラス彫刻です。55年の時を超えて、再び大阪に戻ってきた彼の作品は、複数の万博にまたがって人々を魅了し続けています。

もう1つは、ぬいぐるみタイプのマスコットです。このぬいぐるみは、日本特有の「キモかわいい (奇妙であるがゆえに可愛い)」という感覚にインスピレーションを受け、日本の人々のマスコットへの愛情を意識してデザインされました。その鮮やかなグリーンカラーは、ロウビーチェクが世界でいち早く作品に取り入れた「ウランガラス」をモチーフにしています。

ユニークなデザインと豊かなストーリー性により、レネはチェコが展開するビジュアルイメージの中心的存在となり、日本でも高い人気を博しています。日本で初めてお披露目された後、SNS上にはレネをテーマにしたファンアートが溢れ、その中には数百万回の閲覧を記録する作品もあり、大きな反響を呼んでいます。レネの活躍は、ぜひ SNS (X など) でご覧ください。



@Czech National Pavilion

Business Program (ビジネスプログラム)

～イノベーションとチャンスに満ちたビジネスプログラム～

チェコパビリオンは、来場者の充実した文化体験に加え、チェコ国内外の企業や機関向けに多彩でダイナミックなビジネスプログラムを提供しています。このプログラムは、伝統的なチェコ文化の展示を基盤にしながらも、野心的な商業目標を掲げて発展を目指し、企業間でのノウハウ共有や長期的な関係構築、戦略的パートナーシップの形成を促進するプラットフォームとなっています。

26週間にわたる EXPO 期間中は、テーマ別に多彩なカンファレンスやワークショップが開催され、チ

ェコの参加企業が最新技術を国内外のビジネスパートナーや一般来場者に紹介します。

注目イベントには、CTP*¹主催の「Developing Tomorrow」、ナノテクノロジーのリーダー Elmarco による「NanoTech Global Conference: Innovation in Nanotechnology」、AXENTA*²主催の「Cyber Security: Cyber Security and Data Protection」などがあり、さらにフィンテック、スマートシティ、自律走行モビリティ、農業・建設分野のイノベーション、教育の未来など多岐にわたる分野での企画が予定されています。

*¹ チェコの大手不動産会社 CTP Investment

*² チェコのサイバーセキュリティ分野のリーディング・カンパニー

美味しいビールはもちろん、才能あふれるクリエイティビティ豊かなチェコにぜひ会いに来てください。
皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

チェコパビリオン

<https://expo2025czechia.com/>

<https://www.daisue.co.jp/expo2025/>

info@expo2025czechia.com



@Czech National Pavilion